

2026年2月のてがたんは当日受付にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回3月のてがたんは3月14日(土)で、テーマは「気にならない木に春が来た!？」です。ぜひご参加ください。市民スタッフのみなさま、次回の下見は3月7日(土)です。

2月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道→けやき広場→市民農園
- 観察日時と天気：2026年2月14日(土) 10:00~12:00 晴れ
- 参加人数：16名(大人14名、子ども2名)
- 市民スタッフ：10名(石原直子、伊東茂子、北村章子、木村淳、小泉伸夫、伴野茂樹、弘實さと子、古澤紀元、松田由美子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1名(望月みずき)

観察した生き物の記録

下見で見られたものも含む。

【鳥類】カモ科：ヒドリガモ、カルガモ、マガモ、コガモ／キジ科：キジ／ハト科：キジバト／クイナ科：バン、オオバン／カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ／カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ／ミサゴ科：ミサゴ／タカ科：ハイタカ、トビ／カワセミ科：カワセミ／モズ科：モズ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ウグイス科：ウグイス／エナガ科：エナガ／メジロ科：メジロ／ムクドリ科：ムクドリ／ツグミ科：アカハラ、ツグミ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ／アトリ科：シメ、カワラヒワ／ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン
家禽や外来種：ドバト(ハト科)

【昆虫】カメムシ目：ビワコカタカイガラモドキ、ヨコツナサシガメ／コウチュウ目：ナナホシテントウ

【草の花】アブラナ科：ナズナ／ナデシコ科：オランダミミナグサ／オオバコ科：オオイヌノフグリ／シソ科：ヒメオドリコソウ、ホトケノザ／キク科：セイヨウタンポポ、ノゲシ、ノボロギク

【木の花】ツバキ科：ツバキの仲間、バラ科：ウメ

2026年2月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「冬鳥ウォッチング」でした。冬になると北から渡ってくる鳥が増え、手賀沼では一年で一番鳥の多い季節となります。遊歩道沿いではカムリカイツブリ、オオジュリン、アオジといった冬鳥が多く観察できました。また、日当たりの良い場所では春の草花も咲き始めていました。



今月の案内人
望月みずき



① サザンカの周りで見られたメジロ。



② 遊歩道沿いでホオジロがよく見られた。

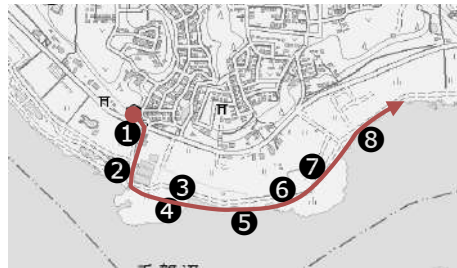


③ 地面で採餌をしていたアオジ。手賀沼では冬鳥。



④ ウメの花が咲き、あたりに春の香りが広がっていた。

歩いたルートと観察した生き物



⑤ 茂みの裏にいたアカハラ。



⑥ ヨシの茎に隠れていたビワコカタカイガラモドキ。冬鳥の貴重な食料。



⑦ すぐ近くの上空を飛んだミサゴ。



⑧ ヨシを突いて採餌していたオオジュリン。

今月の鳥 ハチジョウツグミ

ハチジョウツグミは日本に稀に飛来する冬鳥です。これまでツグミの亜種とされてきましたが、DNA解析や形態の研究が進んだ結果、2024年出版の鳥類目録第8版から独立した種として扱われるようになりました。外見はツグミに似ていますが、尾羽や胸が橙色を帯びること、背中に斑が入らないことが識別のポイントです。鳥の博物館では1986年2月に我孫子市北新田で採集された個体と、採集年不明の岐阜県高山市で採集された個体の標本を収蔵しています。我孫子市で今後も観察される可能性があるため、ツグミの群れがいる時には注意して観察してみてください。また、2月28日から開催している特別企画「日本の鳥」でも展示をしています。ぜひご覧ください。



我孫子市北新田で採集された
ハチジョウツグミ